

第六次秋田県高等学校総合整備計画(素案)概要

～ 夢の実現に向け一人一人が自立できる高等学校教育を目指して～

教育庁高校教育課

計画の策定趣旨

「第五次秋田県高等学校総合整備計画(後期計画)」(平成18～22年度)の実施状況を検証し、急激に変化する社会経済情勢等に対応した新たな計画を策定する。

計画期間

平成23年度から平成27年度までの5年間

基本理念

〔時代の潮流〕

少子高齢化の加速 就業人口の大幅な減少 地域間格差の拡大
所得格差の拡大 分権型社会への流れ 国際化の更なる進展

= 求められる人間像 =

社会生活の様々な場面で挑戦し、自らの価値を高め、
個性や能力を最大限に発揮することができる自立した人間

明日の秋田県を担う高校生たちが、
心豊かに、自らの夢の実現に向けて歩みを進められるよう、
特色ある学校・学科の整備を図りながら
「教育立県あきた」の高等学校教育を力強く押し進める。

各高校における中期ビジョンの策定

各高校は本計画を踏まえながら、特色のある学校づくりをするために、中期ビジョン(5カ年計画)を策定するものとし、年度ごとに取り組み状況を検証し、必要に応じて見直しを行う。
各高校で策定した中期ビジョンについては、本計画の一部として位置付け、広く県民に公開する。

第 I 部 生徒の個性や能力を最大限に引き出す教育活動の推進

1 キャリア教育の充実や 学力向上に向けたきめ 細かな取り組み

望ましい勤労観や職業観を育成することを目指して、地域や関係機関と連携し、キャリア教育を計画的、系統的に推進します。

また、生徒の多様な学習ニーズや進路希望に対応するため、授業改善や学力向上に向けたきめ細かな取り組みを進めます。

(1)個のレベルやニーズに応じた多様なプログラムの実践

- ①キャリア教育の更なる充実
- ②地域連携による外部講師・社会人講師等を活用した進路指導の充実
- ③学校外における学修による単位認定の促進
- ④大学教員等を活用した出張講義の実施
- ⑤博士号教員の一層の活用
- ⑥個に応じた進路支援体制の強化
- ⑦特別支援教育の充実

(2)授業改善による学力向上の取り組み

- ①中学校との接続を重視した初期指導の充実
- ②言語活動の充実を図るとともに、生徒の能力や適性を引き出し、思考力、判断力、表現力を伸ばす授業の実践
- ③目的に応じた少人数学習の推進
- ④生徒による授業評価と保護者等による外部評価の有効活用
- ⑤保護者や地域住民等への積極的な授業公開
- ⑥生徒の主体的な学習に資するシラバスの作成と活用

(3)教員の資質能力の向上

- ①校内外における実践的研修の実施と検証
- ②総合教育センターにおける各種研修及び大学等への教員派遣研修などによる教員研修の充実
- ③生徒一人一人に対する適切な生徒指導力・進路指導力の向上のための研修会の実施
- ④特別支援教育に関する研修会の実施
- ⑤他県との人事交流による成果の活用
- ⑥各学校における危機管理研修会の実施

2 国際社会を力強く生き 抜く教育の推進

国際社会において主体的に行動できる資質や能力の伸長を図るため、英語をはじめとした外国語コミュニケーション能力等の育成に努めます。

また、日々進化を遂げるネットワーク社会や地球環境問題に対応することができるよう、情報教育と環境教育の充実を図ります。

(1)多様な国際理解教育と国際交流活動の推進

- ①国際理解教育を推進する校内体制の充実・強化
- ②海外からの留学生受け入れや海外の姉妹校との交流の促進
- ③高校生の海外修学旅行・国内外派遣交流事業の推進

(2)国際社会に対応できる外国語教育の推進

- ①コミュニケーション能力の育成を目指す英語授業の改善
- ②第二外国語の履修を可能とする学校設定科目の開設
- ③国際教養大学等との連携による外国語教育の充実

(3)情報教育と環境教育の充実

- ①情報活用能力の育成
- ②情報モラル教育の充実
- ③教育活動全体にわたる環境教育への取り組み

3 地域の教育力を活用し た学校間連携の強化と 地域社会との連携

異年齢交流による社会性の醸成や、学びの連続性の観点から学校間連携を推進します。

地域を支える人材の育成という観点から、ふるさと教育等を通じて地域に密着した教育活動を展開します。

(1)小学校・中学校・特別支援学校及び高等教育機関との連携

- ①高校入学者選抜制度等の在り方の検討
- ②小学校・中学校・特別支援学校を含む学校間連携の更なる促進
- ③「大学コンソーシアムあきた」との連携・大学施設の活用

(2)様々な地域資源の活用と地域社会との連携

- ①家庭や地域との連携による教育力の向上
- ②計画的な道德教育と生徒指導の実践
- ③体験活動による地域社会との融合の促進
- ④公立図書館と学校図書館の連携強化と読書活動の活性化
- ⑤生徒の多様なニーズに対応できる公設試験研究機関等の活用
- ⑥専門学科における学習成果を活用した地域貢献の推進
- ⑦高校間連携による、企業情報等の共有化
- ⑧学校評議員制度の有効な活用と学校関係者評価の積極的な公開

1 全日制課程における 適正な学校規模と望 ましい配置

中学校卒業者の大幅な減少や学校配置及び学科配置の地域間バランス、地域における高校の役割などを考慮しながら、適正な学校規模と望ましい配置の実現を図ります。

なお、教育効果や必要な教職員数の確保の面から、1学年4～8学級を学校の適正規模とし、学級減や統合等再編整備を進めます。

(1)1学年の学級数(学級減計画)

- ・学級減計画の策定について
学校の適正規模や適正配置の維持に配慮し、普通科、専門学科、総合学科の割合及びその地域バランスを考慮の上、計画期間内に県全体で19学級の学級減を実施する。

(2)学校の統合等再編整備

①統合について

- ・北秋田地区統合高校、湯沢地区統合高校、能代地区統合高校Ⅰ
計画が具体化している3統合高校については、総合制高校として、学科、コースの充実を図り、特色ある学校づくりを推進する。
- ・開校時期が未定の3地区3統合高校計画
開校時期が未定の次の3地区3統合高校の計画については、「第五次後期計画」の構想を引き継ぎ、早期実現に向けて引き続き地域との協議を進める。
ア「大館地区統合高校(大館柱高校、大館工業高校、大館高校)」
イ「角館地区統合高校(角館高校、角館南高校)」
ウ「能代地区統合高校Ⅱ(能代工業高校、能代西高校)」

②小規模校について

- ・小坂、十和田、ニツ井、五城目、西仙北、平成、雄物川、羽後、雄勝高校
現在、2～3学級規模となっている上記の9校については、今後の状況の変化により、次の基準に該当する場合に、分校化や統合、募集停止等を検討する。

1学年2学級規模で存続している学校において、入学者数が募集人員の2/3以下の状態が2年間続いた場合、学校や地域の実情を考慮した上で、分校化や統合、募集停止等を検討する。

・矢島高校

平成21年4月、由利本荘市立矢島中学校との校舎一体型の中高連携校として開校したが、今後も引き続き教科指導や特別活動での効果的な連携など、教育活動のさらなる充実を図る。

③分校について

分校については、次の基準を下回った場合に募集停止等を検討する。

分校においては、入学者数が募集人員の2/3(23人)以下の状態が2年間続いた場合、募集停止等を検討する。

④校舎改築について

旧耐震基準により建築された「老朽校舎」をもつ次の学校については、「県立学校耐震化推進事業」との整合性に配慮しながら、校舎改築事業を推進する。

- | | |
|----------|----------|
| ア 秋田中央高校 | イ 秋田工業高校 |
| ウ 大曲農業高校 | エ 大曲工業高校 |

2 特色ある中高一貫教育 の推進

既存の2校においては、6年間の計画的・継続的な教育活動の展開により、一人一人の個性や創造力の伸長を図る教育をさらに推し進めます。

また、秋田地区への中高一貫教育校の設置については、新たなコンセプトによる構想を策定し、早期の実現を目指します。

①既存の県立中高一貫教育校2校の成果の検証と教育活動の更なる充実

②秋田地区中高一貫教育校の設置構想の策定

将来、県内外において各界のリーダーとなりうる人材を育成する学校として、設置構想を策定する。
設置形態については、普通科系の学校として、中等教育学校(4学級程度)か、併設型(中学校2学級、高校6学級程度)のいずれかとし、既存校を活用することを前提として検討する。

3 社会の変化や生徒のニーズに柔軟に対応できる学科・コースの在り方

近年の社会状況の変化や産業の国際化・多様化・複雑化等に柔軟に対応し、それぞれの学科の特徴や優位性を最大限生かした教育活動を展開します。

特に専門学科においては、地域や大学、企業との連携や、専門学科間の横断的連携（農工連携、農商連携等）を進めます。

また、専門高校や一部の専門学科については、地域の職業教育のセンタースクールの役割を担う学校として位置付け、近隣の普通高校との連携を推進します。

(1)普通科の改善と充実

- ①進学希望者に対する進路目標達成のための重点的な取り組み
 - ・教育課程の見直しやコース制の在り方の検討
 - ・高校間連携による指導法のノウハウや進学情報の共有化の推進
- ②就職希望者に対する進路目標達成のための重点的な取り組み
 - ・職業を意識した特色ある教育課程の編成
 - ・他の専門校高校等との連携による専門教育の導入や各種資格取得の支援についての検討

(2)職業に関する専門学科の改善と充実

- ①農業～生産・加工・経営等の多様化に対応した、総合的な農業経営技術の習得を図り、アグリビジネス起業家精神を育成する。
- ②工業～環境の保全やエネルギー制約などの課題に対応しつつ、広い視野をもち、異分野との融合を積極的に進めようとする人材を育成する。
- ③商業～将来の起業に向けた起業家精神の育成や事業計画の策定（ビジネスプランニング）能力を身に付けた人材を育成する。
- ④水産～より付加価値の高い水産加工品を製造、販売することのできる、起業家精神を持ち合わせた自立できる人材を育成する。
- ⑤家庭～地域の生活文化を守り育て、衣食住、保育、家庭看護や介護などのヒューマンサービスにかかわる人材を育成する。
- ⑥福祉～地域の福祉制度や福祉サービスの実態を理解し、地域で必要とされる介護サービスを提供できる人材を育成する。
- ⑦情報～情報処理技術者試験やベンダー試験等の資格取得を通して、専門性を深化させ、将来の情報関連技術者となる人材を育成する。

(3)その他の専門学科(理数・英語・国際)の改善と充実

- ①理数～「課題研究」などにより、論理的な思考力やプレゼンテーション能力、表現力を高め、将来医師や研究者などとして社会に貢献できる人材を育成する。
- ②英語・国際～英語を中心に、生徒の外国語での発信力を強化し、異文化理解に努め、豊かな国際感覚を身に付けた、国際社会で活躍できる人材を育成する。

(4)総合学科の改善と充実

- ・生徒の多様なニーズに対応しながら、専門性を深め、一定の技術・技能を習得させるため、教育課程の見直しを実施

(5)専門学科における実習設備・機器の更新と充実

- ・「専門高校次世代対応設備整備事業」の推進
- ・地域産業の担い手を育成するために、老朽化した産業教育設備・機器の更新と新時代に対応した設備・機器の導入を年次計画により実施

4 定時制課程・通信制課程の改善方策

生徒の多様な学習ニーズに応えるために、県内3地区に1校ずつ基幹校を配置することを基本として、定時制課程及び通信制課程の整備を推進します。

- ① 県北地区基幹校の設置について
大館地区の高校再編が具体化した場合、県有地等を活用し、独立校舎による県北地区基幹校(多部制)の設置を検討する。
- ② 角館地区の定時制課程について
角館地区の高校再編が具体化した場合、県有地等を活用し、独立校舎による定時制課程(多部制)の設置を検討する。
- ③ 定時制課程の募集停止等について
基幹校以外の定時制課程については、次の基準に該当した場合、基幹校との関連や地域のニーズ等を考慮しながら、募集停止等を検討する。なお、能代地区(能代工業高校定時制)については、基準を下回る状態が恒常化していることから、募集停止等に向けて地域と協議を進める。

1学年の入学者数10人未満が2年連続した場合、募集停止又は統合を検討する。
- ④ 秋田明德館高校通信制の協力校について
秋田明德館高校通信制が行うスクーリングや試験などに協力する学校として、基幹校を通信制課程の協力校に指定する。
- ⑤ フリー・スクールの空間(スペース・イオ)の設置について
中央地区基幹校・県南地区基幹校に設置しているスペース・イオにおいて、引き続き不登校やひきこもりの児童生徒に対する学習支援を行う。
県北地区のスペース・イオについては、整備予定の県北地区基幹校内に設置を検討する。

計画策定等スケジュール

H22年												H23			H23年度 ~		H27年度	
2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月					
議会で素案を説明	パブリックコメント		外部検討委員会等による検討					議会で成案を説明	計画の公表	計画の周知・準備				「第六次秋田県高等学校総合整備計画」の実施・推進				